

日刊 動労千葉

82.9.10 No.1143

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・八線) 日三三三二七二〇七

権力・動労「本部」革マル一体となった 新たな動労千葉破壊策動を許すな

「本部」革マル・小川健二のタレコミによる デッチ上げ「監禁強要事件」書類送検

動労「本部」革マル・小川健二のタレコミを口実とする、千葉県警佐倉警察署、船橋西警察署のデッチ上げ「監禁事件」は、両警察署が千葉地方検察庁に書類送検したことにより、新たな段階をむかえた。
動労千葉六名の組合員に対する再度の出頭命令、不当逮捕策動を断じて許さず、警察・動労「本部」革マル一体となった組織破壊攻撃を動労千葉の総力をあげて打ち破ろう。

権力・動労「本部」革マル一体となつた動労千葉破壊攻撃

千葉県警佐倉署は四月九日、動労「本部」派組合員・小川健二に対する八〇年七月五日の佐倉機関区乗務員詰所での説得オルグをとらえ、「監禁強要被疑事件」をデッチ上げ、大須賀、川島君(成田支部)、宮内君(佐倉支部)に任意出頭攻撃をかけてきた。

さらに船橋西署は、四月十六日、同じく小川健二に対する八〇年六月二三日の津田沼署での説得オルグを「不当監禁」とデッチ上げ、滝口君(幕張支部)、錦織君(成田支部)、吉野君(勝浦支部)への任意出頭攻撃をかけてきた。

これは、第二臨調基本答申にもとづき、悪慣行是正・職場規律確立に名をかりた既得権剥奪など、国鉄労働運動解体攻撃の激化のなかで、動労「本部」革マルが警察にタレコミ、警察の力をかりて動労千葉を破壊しようとする、絶対に許すことのできない組織破壊攻撃であり、六・一二デッチ上げ告訴につき、動労「本部」革マルの警察労働運動への転落を決定づけるものといえる。

六名を先頭とする動労千葉の 総力をあげた闘い

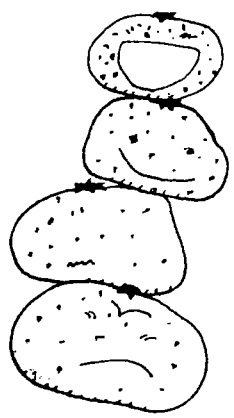
動労千葉は六名の組合員を守り、六名の家族の闘いをわがものとし、不当弾圧を打ち破るために直ちに臨戦態勢に突入した。
まず、六名が「完黙、非転向」のなみなみならぬ決意を打ち固めるとともに、当該四支部のろう城体制を先頭に全支部でのたび重なる抗議集会の開催と抗議行動など反撃の闘いを展開した。
警察の出頭命令攻撃をきっぱりと拒否し、六名を支える全支部の闘いは、権力に一指もふれさせることなく勝利的に闘い抜かれてきたのである。

反動佐々木検事の新たな

弾圧策動を粉碎しよう
動労千葉に手をかけ、不当逮捕を狙いながら、デッチ上げゆえに破綻した警察は、八月、不当にも検察庁に書類送検するという暴挙を行った。

これを受けた千葉地検は、「六・一二デッチ上げ事件」で不当逮捕した三名の組合員に対し、ウカツと転向強要の取調べを行い、不当にも起訴した三名を有罪にするために公判で「奮闘」している反動検事・佐々木を担当にすえたのである。骨の髄から動労千葉を憎み、敵視する佐々木検事は八月二四日、動労千葉顧問弁護団の菅野弁護士に対し、「出頭に応じるかどうか」と電話で打診してきた。

権力・佐々木検事による再度の「出頭命令」、不当逮捕策動という新たな弾圧の開始に対し、組合員の決起で断固粉碎するとともに、権力と一体となり、動労千葉破壊をくり返す動労「本部」革マルの一掃をかちとろうではないか。



当面するスケジュール

- 9月11日 第五回青年部定期委員会
- 16日 第十一回「組合費」公判
- 17〜18日 第五回乗務員分科定期委員会
- 21日 第十回「6・12デッチ上げ事件」公判
- 22日 「検査・検修分科会」結成委員会
- 30〜10月1日 動労千葉第七回定期大会
- 10月11日 三里塚全国総決起集会

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！